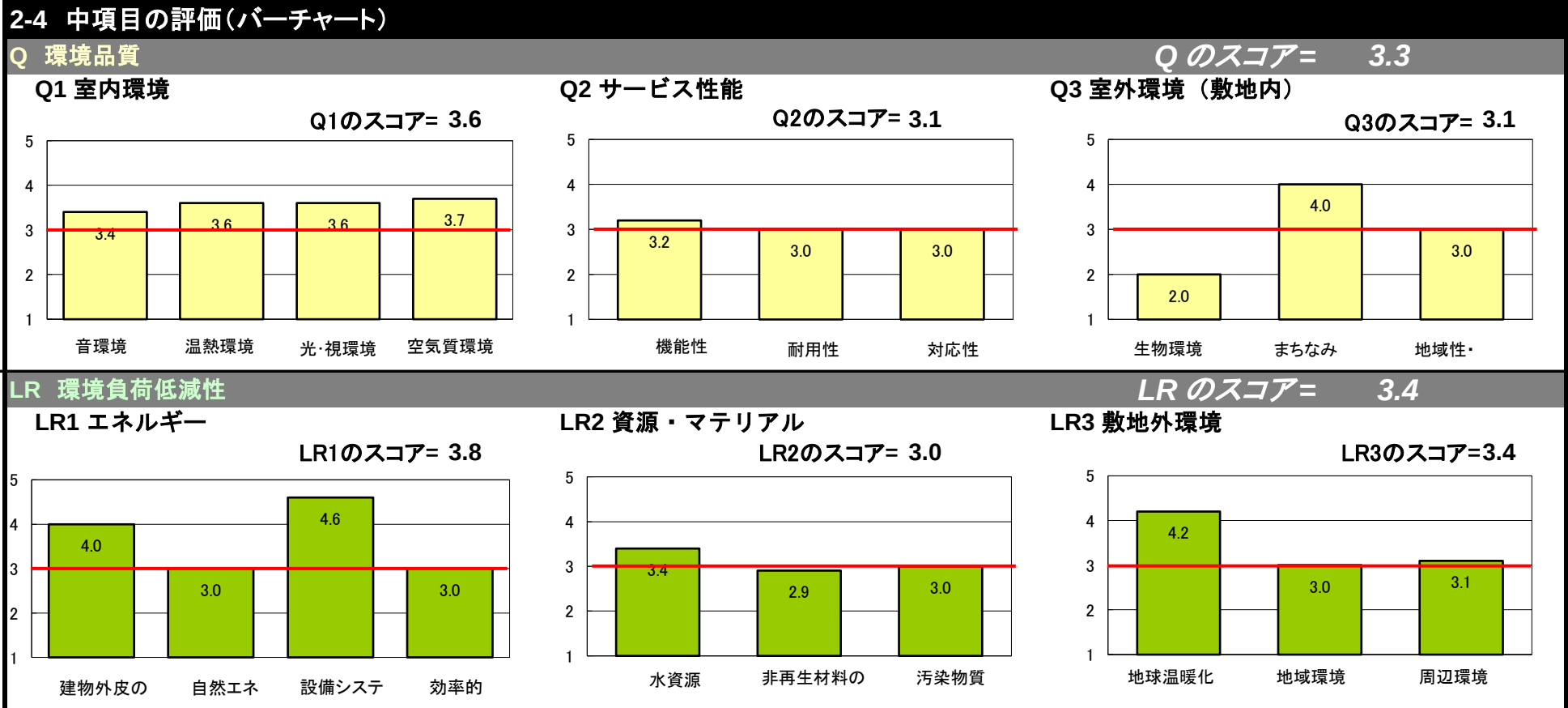
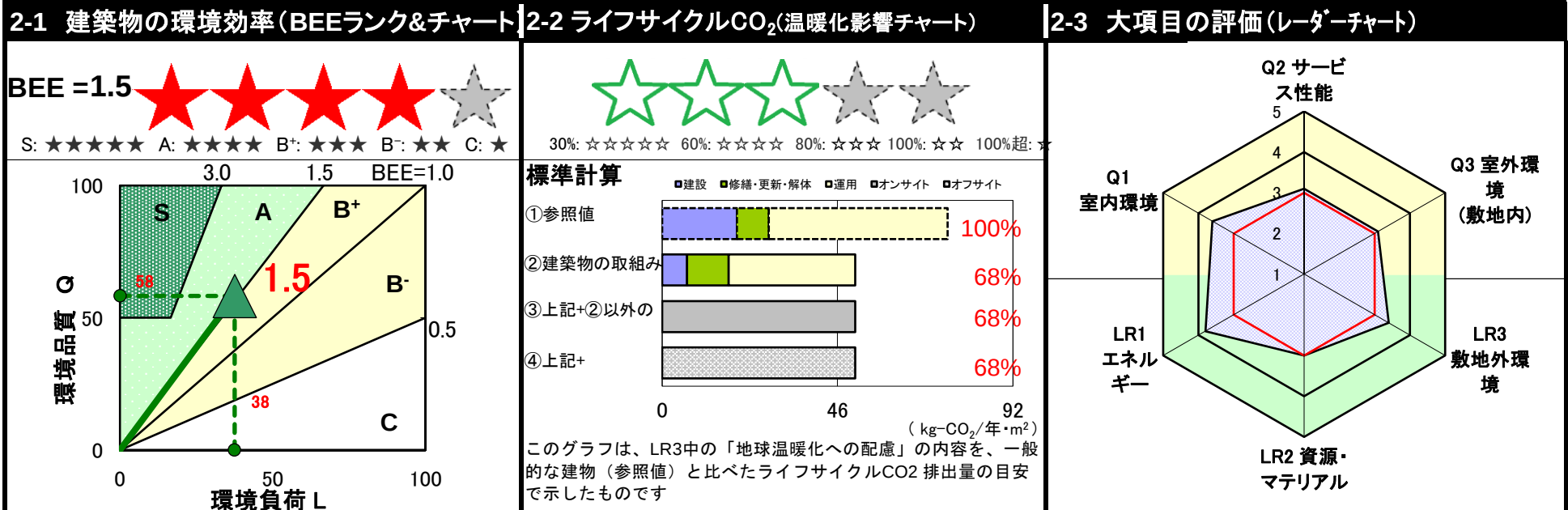


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岡崎市康生通南PJ	階数	地下0階地上20階
建設地	愛知県岡崎市康生通南一丁目38番39番1,40番1	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	384人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年1月31日
敷地面積	1,785㎡	作成者	山口 明子
建築面積	584㎡	確認日	2022年1月31日
延床面積	8,798㎡	確認者	馬場 律也



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
4.2	2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		47.8 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
2.9	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
		重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境						0.40			-	3.6
1 音環境				0.1	3.0	0.15	3.5	3.5	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50	
1.2 遮音				0.5	3.0	0.50		4.1	0.50	
1 開口部遮音性能			T-2以上サッシを採用		3.0	1.00		5.0	0.30	
2 界壁遮音性能			界壁コンクリート20cm以上	-	3.0	-		4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45フローリング材の採用	-	3.0	-		4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20	
1.3 吸音				-	3.0	-		3.0	-	
2 温熱環境				0.3	2.3	0.35	4.0	4.0	1.00	3.6
2.1 室温制御				0.5	3.3	0.50	4.0	4.0	1.00	
1 室温			住宅性能評価4等級	3.0	3.0	0.63		-	-	
2 外皮性能				3.0	4.0	0.38		4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-		-	-	
2.2 湿度制御				3.0	2.0	0.20		-	-	
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30		-	-	
3 光・視環境				0.2	2.3	0.25	4.0	4.0	1.00	3.6
3.1 屋光利用				0.3	1.8	0.30	4.0	4.0	0.50	
1 屋光率			住宅部分 屋光率2.0%以上	3.0	1.0	0.60		5.0	0.50	
2 方位別開口						-		3.0	0.30	
3 屋光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	0.20	
3.2 グレア対策				0.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.50	
1 屋光制御			庇及びカーテンの設置	5.0	2.0	1.00		4.0	1.00	
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		-	-	
4 空気質環境				0.2	3.6	0.25	3.7	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策				0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆使用	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00	
4.2 換気				0.4	3.0	0.40	3.3	3.3	0.38	
1 換気量			居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保	3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	3.0	-		4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	-		-	-	
2 喫煙の制御				3.0	3.0	-		-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30		-	-	3.1
1 機能性				0.4	3.6	0.40	3.2	3.2	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	-	-		-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-		3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	5.0	0.30	3.5	3.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)			居室天井高2.5m	3.0	3.0	-		4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			建物全体のコンセプトが明確かつ内装バース等により事前検証を実施	3.0	-	-		-	-	
3 内装計画				3.0	5.0	1.00		3.0	0.50	
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			躯体劣化等級3	-	5.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上り材の補修必要間隔				-	1.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上り材の更新必要間隔				-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			2種類以上のB以上を使用し、Eは不使用	-	5.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20		-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性					0.2	3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0		
	3.1 空間のゆとり		②	階高2.91m以上	-	-	-	3.2	3.2	0.50			
	1	階高のゆとり			-	-	-		4.0	0.60			
	2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		2.0	0.40			
	3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50			
	3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00	-	-	-			
	1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-			
	2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-			
	3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-			
	4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-			
	5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-			
	6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	-	0.30	-	-	-	3.1		
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0			
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	街のシンボル岡崎城と共通する構成でデザインし城郭エリアとして特別な個性を表現した	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0			
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0			
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-				
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-				
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	-	3.4		
LR1 エネルギー					-	-	0.40	-	-	-	3.8		
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=等級4	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0			
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0			
3 設備システムの高効率化			BEI=0.87	3.0	4.6	0.33	-	-	-	4.6			
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0			
	集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	-			
	4.1	モニタリング			3.0	3.0	-	-	-	-			
	4.2	運用管理体制			3.0	3.0	-	-	-	-			
	集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-			
	4.1	モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-			
	4.2	運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	-	0.30	-	-	-	3.0		
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4			
	1.1 節水			節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-			
	1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-			
	2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-	-	-	-			
					-	3.0	0.50	-	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9			
	2.1 材料使用量の削減		② 独自	— — — — — — —	-	2.0	0.07	-	-	-			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-	-			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.20	-	-	-			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	5.0	0.24	-	-	-			
					躯体と仕上げ材の分別可能、内装材と設備が錯綜しない(木軸、LGS下地)								
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0			
	3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-			
	3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-			
	1	消火剤			-	-	-	-	-	-			
	2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-			
	3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-			
					-	3.0	0.50	-	-	-			
LR3 敷地外環境					-	-	0.30	-	-	-	3.4		
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率68%	-	4.2	0.33	-	-	-	4.2			
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0			
	2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-			
	2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-			
	1	雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-		
	2	污水处理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-		
	3	交通負荷抑制			独自	-	4.0	0.25	-	-	-		
	4	廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1			
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止				適切な駐車及び駐輪台数の確保	0.4	3.0	0.40	-	-	-		
	1	騒音				独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
	2	振動				独自	-	-	-	-	-	-	
	3	悪臭				-	-	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
	1	風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-		
	2	砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-		
	3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	4.0	0.70	-	-	-		
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

(仮称)岡崎市康生通南PJ

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	2.9
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	2.0
③ 敷地内の緑化				
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:47.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア＝重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 道に対して、街に対して斜めに構えた動きのある配置計画とし、中央には岡崎城周辺で目にする石積のモチーフを展開しました。また、足元の豊かな緑、しっかりとした基壇、モノトーンの色彩で岡崎市のシンボルである岡崎城、岡崎公園との親和性を目指す計画としました。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 居室開口は遮音サッシュT3、(共用廊下側のみT2)を採用して昼光率と音環境に配慮し、省エネ4等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指しました。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級、設備維持管理機能の確保を目指しました。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高木や低木を組合せ立体感のある緑化計画を道路前面に設け、圧迫感のない計画となるよう配慮しました。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ外皮・一次エネルギー共4等級の断熱仕様及びエネファームの採用で環境負荷低減に努めました。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 エコ商品・リサイクル商品の利用を心がけます。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 他の住棟との配置を考慮し、風害・日照の配慮、地被植物や透水性舗装により熱的な影響を低減することを目指しました。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。